



## 小田原市におけるローカルSDGsの達成に向けた取組

小田原市長 守屋 輝彦

2020.11.9 SDGsステークホルダーズ・ミーティング／SDGs推進本部円卓会議環境分科会

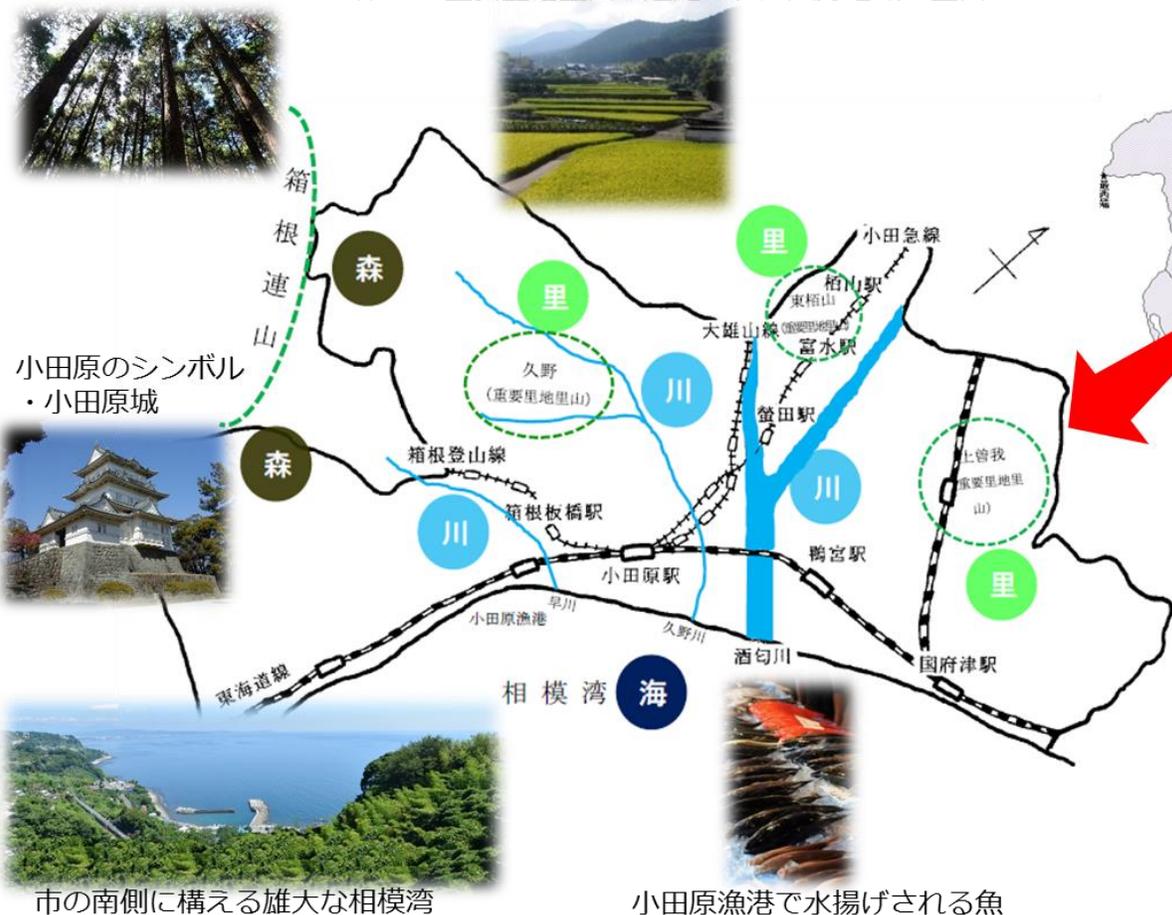
# 1. 小田原市の地域特性

- ◆ 人口約19万人／神奈川県西部の中心都市（戦国時代の城下町・江戸時代の宿場町）
- ◆ 首都圏にありながら森里川海オールインワン／自然環境と調和した生業・文化・歴史を基盤とする
- ◆ 2011年以降、気候変動対策、とりわけ再生可能エネルギーの導入拡大による持続可能なまちの実現を目指し取組を展開

## 小田原の地域特性

箱根連山に連なる豊かな山林

重要里地里山に選定された久野地域の里山



**位置：**新幹線で品川から 26分

**地勢：**黒潮が流れる海に面し、背後が山地に囲まれているため、年平均で気温16℃、降雨量2,000ミリ前後、温暖で暮らしやすい気候

**人口：**189,014人  
(世帯数：82,309世帯)  
令和2年10月1日現在

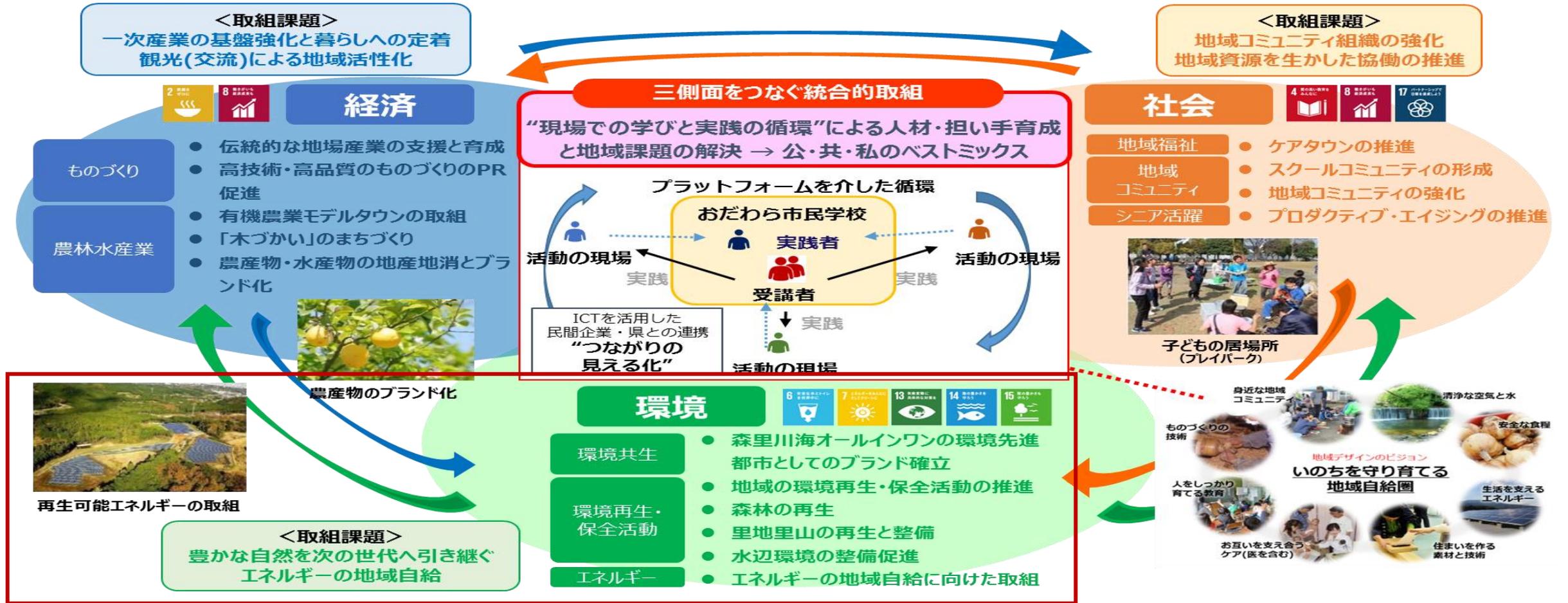
**面積：**113.81km<sup>2</sup>



地域の多彩なプレーヤー

## 2. SDGs未来都市 小田原の取組

- ◆ 恵まれた自然環境、地勢条件、歴史的に育まれてきた技や人、地域の絆などの社会的資源が小田原の強み。
- ◆ ひとづくりやつながりの強化を中核に、豊かで、安全で、持続可能な暮らしを実現する。

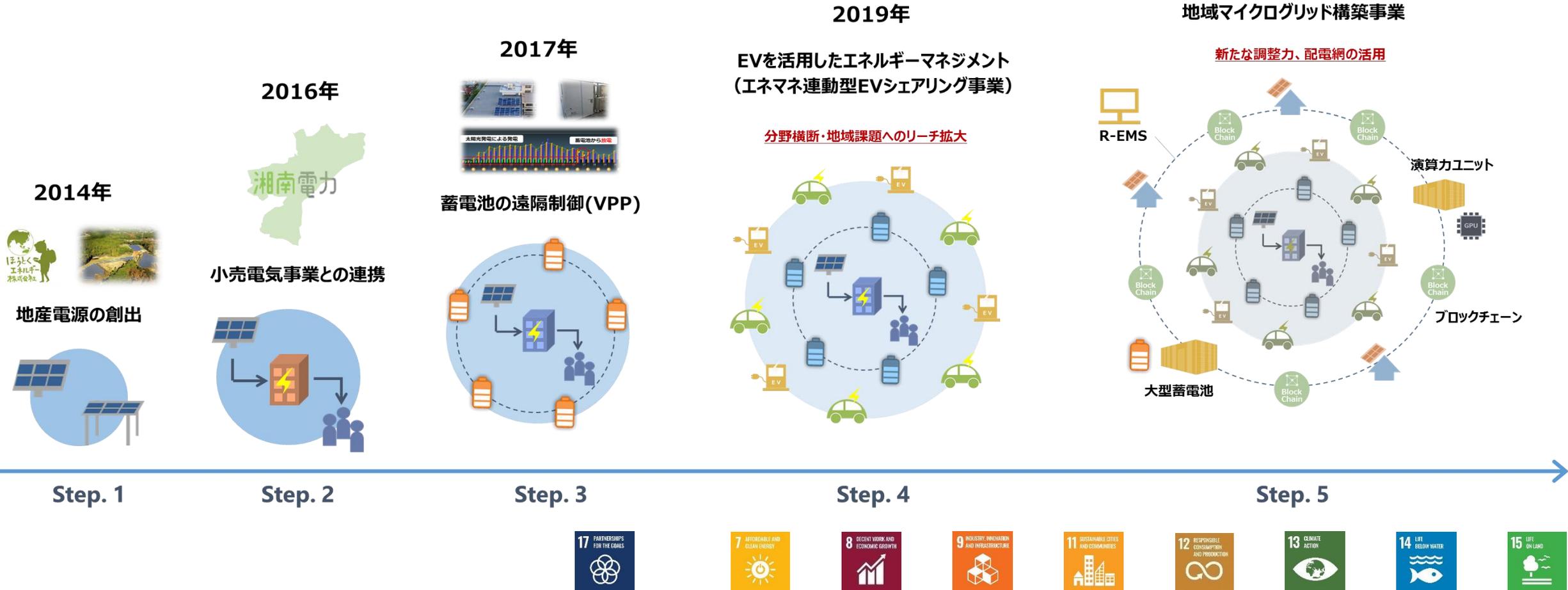


とりわけ、持続可能な地域社会の前提となる再生可能エネルギーを活用した、持続可能なまちづくりを強力に推進。

# 3. 持続可能なまちづくりに向けたエネルギー政策の取組

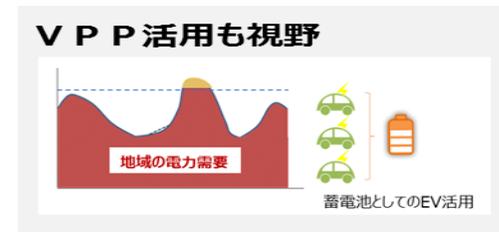
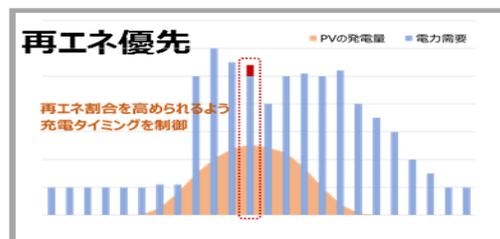
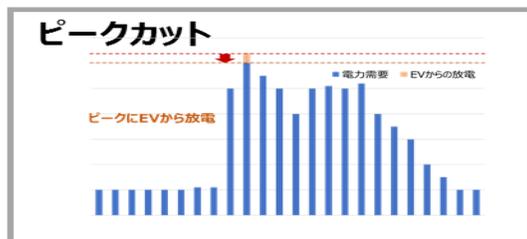
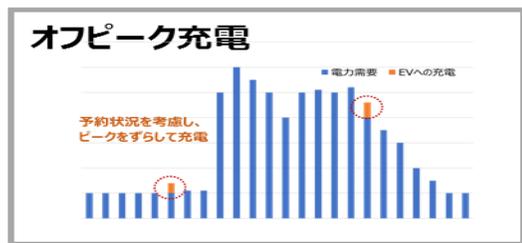
- ◆ 小田原市はこれまでに、市民参加型の地産電源の創出、地産電力の供給体制の構築、さらには蓄電池を活用した再生可能エネルギーの効率的なエネルギーマネジメントにも含め、段階的に実施。**一貫して公民連携を重視し、民間主導の自立的な取組を後押し。**
- ◆ 2019年からは、“動く蓄電池”としてEVを活用。様々な地域資源をつなぐツールとして、分野を超えた課題解決の裾野を拡大。
- ◆ 直近では、地域の配電網を活用し、デジタル社会の基盤インフラ導入を見据えた地域マイクログリッド事業を実施。

## 公民連携によるエネルギー政策の展開



# 4. エネルギーマネジメント連動型EVシェアリング事業（脱炭素型地域交通モデル事業）

- ◆ 本事業では、EVの蓄電池としての性質に着目し、地域の再生可能エネルギーを有効に活用するためのエネルギーマネジメントを実施。
- ◆ 地域のエネルギーインフラの一部として、レジリエンスの強化や電力事業とのセクターカップリングなど、多面的な活用を企図。
- ◆ 事業の主体となる株式会社REXEV, 地域新電力である湘南電力株式会社と連携し、神奈川県西エリアに100台のEVを導入予定。



予約状況、充放電制御を統合的にマネジメント



**EVシェアリング (eemo)**

**REXEV**

小田原市内をはじめとして県西エリアに **100台** のEVを導入

**新電力とのセクターカップリング** 湘南電力

EVへの再エネ供給メニューとセットメニュー

**湘南のでんきeemo割**

月々275円(税込)お得

**湘南のでんき + eemo**

電気のご契約と電気自動車のカーシェアリングをセットでお申し込みいただくと、月々275円(税込)お得。

# 5. 課題解決型の好循環創出に向けた取組と脱炭素型地域交通モデルによるつながり構築

- ◆ 再エネを活用した脱炭素型地域交通モデルは、**地域資源をつなぎ、地域課題の解決へのヒト・モノ・カネの好循環を生み出す**ことにも貢献。
- ◆ 都心からアクセス良く、様々なリソースが集積する「わんぱくらんど・いこいの森」エリア等において、様々な循環が構築されている。
- ◆ 地域課題解決の視点を持ち、民間事業者等との連携や自立的な取組を活かしながら、地域の取組を束ね、持続可能な好循環を創り出していく。

## 課題解決に直結した公民連携の様々な循環から先進的なテクノロジーの活用までをつなぎ、複層的なローカルSDGsモデルを構築

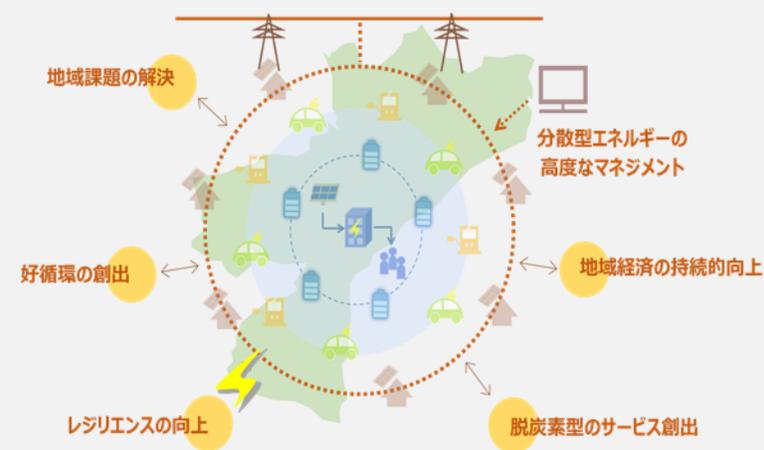


## 6. デジタル化による持続可能なまちづくりに向けて

- ◆ リモートワークなど、新たなライフスタイルや、これを可能とするデジタル技術は、小田原の豊かな自然やそれに立脚した生業・文化・歴史など、地域のポテンシャルに光をあてる好機。
- ◆ 持続可能な再生可能エネルギーを最大限活用し、ヒト・モノ・コトなどあらゆる資源を効率的に活かすため、さらなる公民連携によりデジタル技術を積極的に活用、ローカルSDGsの達成に貢献していく。

### 分散型の地域エネルギーシステムの構築

—“点”での導入ではなく、効果的なマネジメントを視野—



### ヒト・モノ・コト、あらゆる資源の最大限効率的活用

—サーキュラーエコノミー、シェアリングエコノミー—



### 次世代・脱炭素型の社会インフラへのアップデート

—社会のDX、地域課題への根本的なアプローチ—

デジタル社会の基盤となる地域インフラと再生可能エネルギーの活用



地域のプレイヤー 



社会システムを効率化する内外のテクノロジー

スピード感をもった積極的な公民連携により、SDGsの達成、小田原の地域特性を活かした持続可能な地域社会の構築を目指す